1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500471		
法人名	株式会社 はまゆう		
事業所名	グループホーム あけぼの苑 B棟		
所在地	宮崎県宮崎市田野町あけぼの2丁目32番地1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	R2年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあけぼの苑では、ふれあいとコミュニケーションを大事にして、できる限り自立できる支援を日常生活の中に取り入れそのことによって、利用者さんが役割を持つことにより生きがいができる望む暮らしに近づける雰囲気づくりを作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念に於いてB棟職員は、見直しを行い2つの内1つを新たに構築し、毎日朝礼で唱和し実践に繋げていける様、日々努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	実習生や見学者の受け入れは常に行っている。本来ならば、月1回の「傾聴ボランティア」「ほほえみ紙芝居」の来苑があるが、コロナ禍により現在実施されていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在も自治会はなく、地域の方々へ向けた発信をする場が少ない為、活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多職種の方々に出席して頂き、色んな意見をもらいながら、サービス向上に活かしている。 (利用者様ご家族・包括支援センター・生活支援コーディネーター・民生員・地域の方)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長は機会ある毎に、総合支所や包括支援センターへ出向き、現状報告等をする事で協力関係を築けるように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修会は、常に職員が参加している。 ・身体拘束委員会による定期的に現状報告・検証・見直しを行い、その結果を職員全員で共有し、ケース会議・棟別で正しい理解と意識づけに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修会に参加した際は、ケース会議で発表・報告を行い、虐待が見過ごされない様に取り組んでいる。 ・棟別会議では、言葉遣いや自分達の対応について振り返りを常にする様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の権利擁護や成年後見制度の研修に参加し、全体会議にて研修を開催し必要性を話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明により詳細に説明し最後に利用者やご家族に理解できないことの確認をし納得するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて利用者様やご家族、地域の意見を聞き全体会議にて全職員に反映させている。その議事録を玄関にて閲覧できるように、全入居者様へ送付している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各棟会議に参加し、スタッフからの意見を聞くようにしている。スタッフからでた意見や提案を再度全体会議にて話し合い。みんなの同意のもと反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の面談及び管理者との面談にて各棟のスタッフ一人一人の把握に努めており職場環境についてや条件を吸い上げて整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々の面談及び管理者との面談にて各棟のスタッフ力量を把握し一人一人のレベルに合わせた研修への参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、外部研修会、地域のタコ会等に全スタッフを交代に参加してもらい同業者との交流により他の施設の取り組みや良いところを聞くことにより当施設に良いところは取り入れ質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとり個別支援での時間を作り、ご本人の不安や要望に気づけるよう努め、安心して過ごして頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時・入居後、電話を利用した連絡等でご家族・ご本人の不安に耳を傾けながら、又、担当者会議を通じて苑生活においてより良い関係づくりができる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネを中心にし、積極的な窓口となり、ご本人・ご家族の意見・要望を聴き、職員同士の情報を共有し合いながら、必要に応じてサービスの調整を行うなど、安心できるサービスを心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑で収穫した野菜などを一緒に下ごしらえしたり、行事事でその日の昼食で一緒に頂いたり喜びを共有できる企画を取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、面会でご本人と会う事が難しい中、なるべく担当者会議や、電話での時間を活用し、日々の様子や健康面などを伝え、共に支え合える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援が難しい中、少しでもご本人の気分が晴れるように、ホール内や各居室に写真を飾ったり、できる日は短時間での外気浴を促したりと楽しく過ごす事ができるよう工夫をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士を見極めて、近くで会話を楽しんで頂けるような席順や環境づくりに努め、より多くの利用者様が孤立せずに過ごす事ができるよう支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご本人・ご家族の要望にできる限り添えるよう、相談や支援ができるように努めている。他の施設へ転居された際もご本人のこれまでの性格面・健康面・ケア内容への情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスやモニタリング時に問題点ばかりでなく、喜ばれた事、笑顔が多くみられた事等、ケアチーム全員と共有し、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時は時間の関係もあり、全部を話して下さるのは困難。少しづつ担当者会議や面会時に聞いている。理解ある利用者様にはコミュニケーションをとりながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様はいつも同じ状態ではなく、身体的・精神的に変化が見られている。夜の状態はどうだったのか、昨日はどうだったのかの把握に努めながら一日一日を過ごして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングとカンファレンスを行い、利用者様の状態をアセスメントし、ケアチームのメンバーが目標を共有できるように介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容に基づいた記録により、職員間で情報を共有し見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族対応で受診困難な利用者様は、訪問診療を依頼。ご家族により「サプリメントを飲ませて下さい」と持って来られ量も多量であり、スムーズに服用されない時もあり、困難な方も手間をかけながらご家族の要望に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年1回の実習生の受け入れ 月1回の傾聴ボランティア・紙芝居 2か月に1回 美容師に散髪依頼		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診を基本としている。専門医での受診(歯科・皮膚科・泌尿器科・眼科・整形外科)も各々に行かれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で捉えた少しの状態変化や異常は一人ひとりを理解した上、すみやかに上司へ報告・連絡・相談をし、ご本人・ご家族の希望を重視しながら医療支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が不安・ストレスなく安心して治療ができるように、ご家族・医療機関との情報交換は積極的に行い、より早期にスムーズに退院できるよう支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成しており、担当者会議で家族に十分な説明を行い、理解して頂けるよう取り組んでいる。「かかりつけ医・協力医療機関」への相談も行き、指示等を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていないが、機会ある度に対策を話し合っている。 発生時には慌てず、適切な行動が取れるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な火災避難訓練を行っている。地域には、常に入り口を開放し日頃から施設に入りやすいよう取り組んでいる。夏祭りや敬老会等地元の人に来てもらい協力をお願いを常に説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重に努め、ご本人の歩んでこられた人生を理解し、受け止め、プライドを傷つける事のないよう、優しい言葉かけ・対応をするよう職員で話し合い努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望が少しでも多く引き出せるよう一人ひとり個別での時間を設け、楽しんだ日常生活が送れるよう日々取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にする事に努めているが、午前中のお茶後、約1時間程は利用者様同士の交流と健康維持は目的とし、体操・歌・ボール遊び・歩行訓練を実施している。午後は利用者様それぞれに自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関心のない方が多くなっている中で、少しでも関心を思ってもらえるよう、声かけ・会話をし、行事や外出時ご本人の希望を聴き出せるように努め、支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	中庭の家庭菜園を利用し、季節に合った作物を植え、収穫を一緒に行った後、その日の夕食の下ごしらえ等をして頂き提供する支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏った食事にならない様に栄養バランス・形態を考え提供するよう努めている。食事量を毎日記録し、水分量チェックが必要な方には一日分を明確に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアは毎食後実施している。 ・その人に合わせた介助・支援をしている。 ・義歯消毒は基本1回/週(月)実施しているが、その人によっては2回/週(月・木)又、毎日実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、トイレの声掛け・誘導を行い、毎日を気持ち良く過ごして頂くように努めている。又、失禁が時々見られる方に対して、一日2回パッド点検を行い、不快なく清潔に過ごしてもらえるよう日々支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを記録しており、一人ひとりに合った緩下剤や坐剤をかかりつけ医・協力医療機関へ相談し、処方して頂いている。日々職員同士で申し送りを通し、排便コントロールに努めている。(飲水量のチェックも行っている。)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望を申し出る方は居ないが、一人ひとりに合わせた介助・支援を行っている。現在一人、時々拒否をされる利用者様がおられるが、順番を変えたり、会話などしながら上手に入浴に繋げるよう支援し、実施できている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からは、一人ひとりの生活リズム・体調に合わせて、1時間程臥床して頂く時間を設けている利用者様も数名おられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は利用者様の服薬の目的・用法・副作用について理解に努めている。服薬チェック表を使い、安心・安全に服用して頂けるように、また服用後の症状変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かした支援(塗り絵・料理の下ごしらえ・かたづけ・洗濯物畳・歌の好きな方・話の好きな方)残存機能を活かした支援(縫物・作物の収穫の手伝い・本人用の洗面台の掃除)に日々努めている。コロナ禍の為、今年は夏祭りが出来なかったため、苑内でかき氷作り・焼きそば作りを手伝ってもらい一緒に食べて頂いた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍に依り、外出への支援は困難であるが、時々苑の周囲の散歩やご本人の要望に応じ、コンビニ等に同行する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様よりお金への要望をされる方3名程おられるが、それぞれ認知レベルの問題やご家族への要望もあり、ご本人で持っておられる方は1名である。自分の欲しい物への要求に対してご家族へ相談し、持参して頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙など出される方はおられないが、電話の申し出はその都度要望に応じるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中ホールで過ごされる事が多い利用者様にはゆっくり過ごせるように、席の配置・テレビが見えるように移動・誘導・音響の配慮、外の空気も味わって頂けるように支援に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の気の合った方々が楽しい時間を過ごせるように雰囲気作りに努めている。また手伝いが好きな方には盛り付け・下ごしらえ(もやし・根取り・皮むき)・和えたりし、生き活きた時間が過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が書かれた油絵・家族の写真・手紙など飾り、不安なく生活して頂けるよう努めている。慣れ親しんだ家具を置き、少しでも居心地良く過ごして頂くよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床・バリアフリー・手すりの設置、夜間時センサー式照明の設置に配慮し、一人ひとりが「できること」「わかること」を活かした安全で自立した生活が送れる工夫をしている。		